

ハマフエフキ

I 親魚と産卵状況

材料と方法

1. 親 魚

昭和55年に使用した親魚11尾中、4尾は昭和55年8～11月かけてビブリオ病により斃死したため、新たに同年9月から12月にかけて川平湾内で底延縄により採捕した天然魚（尾叉長38～42 cm、体重1.0 kg以上）を5尾追加補充した。同様に昭和53年に、人工生産されたハマフエフキ8尾（尾叉長31～35 cm、体重580～800 g）を昭和55年9月25日同一水槽へ収容して親魚養成を行なった。

2. 飼育管理

水槽は屋外の60 t水槽を使用、注水量は5～10回転/日、無通気とし遮光はしなかった。底掃除は年間10回程度、必要に応じて水槽から水槽へ親魚の移し替えを年2～3回実施した。給餌はマダイ用人工配合餌料を1～2回/日、適当量投餌した。かん水性白点病の初期症状が認められたときは硫酸銅 1PP mの薬浴を完治するまで実施した。

3. 採 卵

採卵方法は前年度と同様、採卵網は夕方設置して翌朝10時頃に取り揚げ、雑藻やゴミ等を除去して総卵量を計量し、浮上卵と沈下卵に分離後、沈下卵を計量して、卵1 g当たり2,400粒に換算した。

結果と考察

1. 親魚養成

親魚養成は順調に行われ、昭和57年1月現在で20尾生残し歩留り100%であった。前年度はかん

表 1. 養成親魚の大きさ

No.	尾叉長 cm	体重 g	No.	尾叉長 cm	体重 g
1	41.0	1,700	11	45.8	2,300
2	42.0	2,000	12	44.0	2,850
3	44.5	2,050	13	43.0	2,250
4	52.5	3,650	14	46.5	2,900
5	48.0	2,800	15	42.5	2,200
6	45.0	2,650	16	41.5	2,450
7	42.0	1,850	17	41.5	2,100
8	41.0	1,550	18	42.5	2,050
9	45.5	2,150	19	43.0	1,850
10	45.0	2,100	20	43.5	2,200

ん水性白点病が6回発生し、そのたびに硫酸銅による薬浴で治療効果が認められた。今年度も上記の原虫寄生が3回発生し、いずれも硫酸銅の薬浴により完治している。前年度の8～11月にかけての斃死事故はかん水性白点病の治療が長期化し脱鱗やスレ症状から2次感染的にビブリオ病となり斃死したものである。ハマフエフキの親魚飼育においてかん水性白点病の早期発見、早期治療をすることにより安定した飼育が可能になるものと思われる。

※ 1981年10月3日測定

2. 産 卵 状 況

今年度の産卵は昭和56年2月18日から始まり、産卵、停止を繰り返しながら11月7日に産卵は終了した。産卵の通算期間は263日、その間の産卵回数は165回であった。表2と図1に月別および日別の産卵状況を示した。産卵開始時の水温は22.8℃とほぼ例年と同様、水温が29～27℃から27～25℃に下降し始めた頃から産卵量が減少し23℃以下になると産卵が終了した。

表2 ハマフエフキの月別産卵状況

月	総採卵数 粒	浮上卵数 粒	沈下卵数 粒	浮上卵数 %	産卵回数 回
2	360,000	81,600	278,400	22.66	4
3	883,200	516,000	367,200	58.42	7
4	9,996,000	7,140,000	2,856,000	71.42	21
5	10,140,000	5,796,000	4,344,000	57.15	21
6	4,524,000	3,216,000	1,308,000	71.08	16
7	4,975,200	2,364,000	2,611,200	47.51	16
8	6,300,000	3,420,000	2,880,000	54.28	23
9	14,748,000	9,048,000	5,700,000	61.35	28
10	7,500,000	5,760,000	1,740,000	76.80	22
11	1,068,000	708,000	360,000	66.29	7
合 計	60,494,400	38,049,600	22,444,800	62.89	165

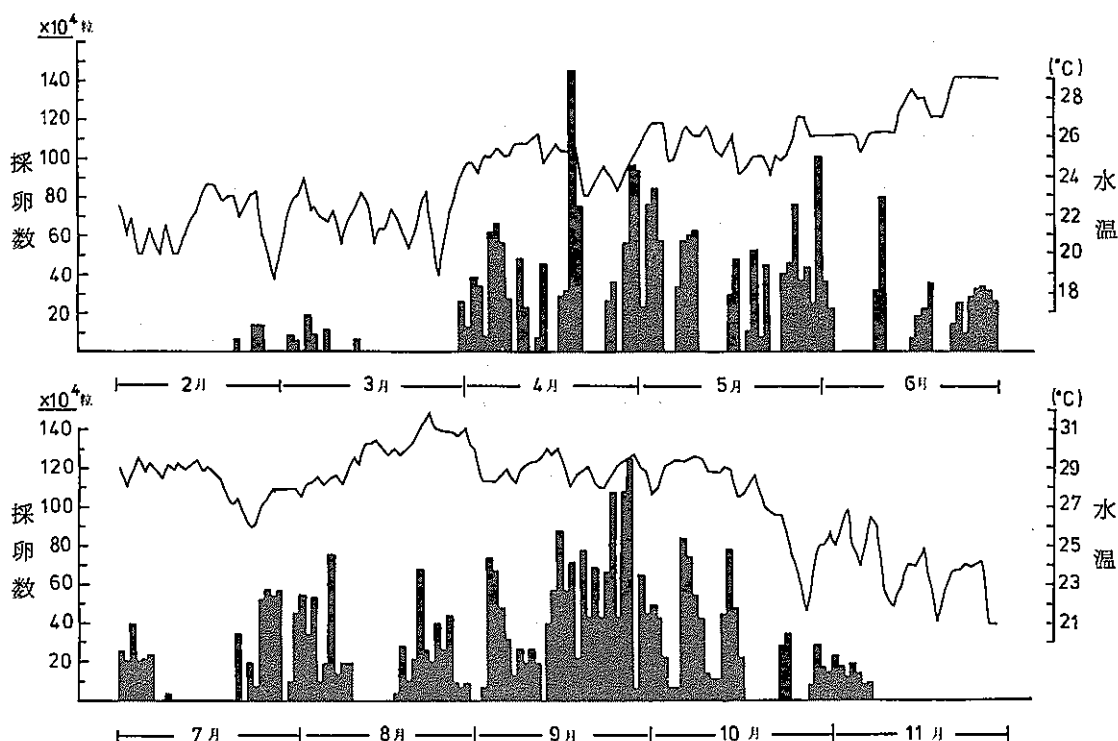


図1. ハマフエフキの産卵状況と水温変化